

文化の丘

令和5年 9月号
(ISSN 1345-2282)

No.374

- 1 新県立中央図書館の設計に関する進捗状況をお伝えします
- 2 新県立中央図書館の主な特徴
- 3 新県立中央図書館の全体像 昔へいざない
- 4 静岡県の図書館 Snap Shot!

新県立中央図書館の設計に関する進捗状況をお伝えします



新図書館の外観イメージ

静岡県教育委員会では、JR東静岡駅南口に移転する新県立中央図書館の設計を進めています。

充実した収蔵能力を持つ県立図書館ならではの調査・研究や読書に没頭できる環境に加え、新しいタイプの図書館として、利用者の誰もが様々な用途で自由に使い、にぎわいのある交流の場を設けます。

県民の知のインフラとして図書館機能の一層の充実・強化を図るとともに、県民が出会い、交わり、新しい文化を育む新時代の「情報」館となるよう、着実に整備を進めていきます。



新図書館の内部イメージ

ペDESTリアンデッキのイメージ



また、新図書館は、駅前という立地に恵まれていることに加えて、JR東静岡駅のコンコースとメインエントランス(3階)をペDESTリアンデッキでつなぐことにより、公共交通機関を利用したアクセスも容易になります。

今回は、そうした新図書館の概要の一部を紹介します。

※紹介する内容や画像は現段階のものであり、今後変更となる場合もあります。またイメージ図(設計業務委託者であるC+A(シーラカンスアンドアソシエイツ)・アイダアトリエ・日建設計(エンジニアリング)設計企業体より提供)の窓や外壁、手すり等、一部簡略化しています。

新県立中央図書館の主な特徴

新図書館の特徴として、「資料体」（書庫）を中央に設置し、来館者の好奇心を刺激する構造が挙げられます。

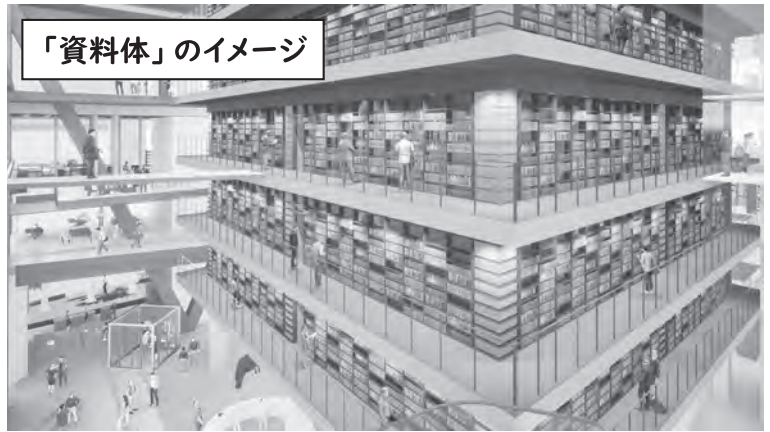
館内のいたる所から望むことができる「資料体」は、外部から資料を守る、さながらお堀と城郭を彷彿とさせます。この「資料体」の書庫をはじめ、約80万冊の資料を直接手に取ることができる、日本最大級の開架スペースを備えます。

下層階は交流スペースとして新しいタイプの図書館機能（学び・交流・創造の場）を持たせ、テーマ別の資料配架や多目的ホール、セミナールーム等を設置します。

オープンコラボレーションスペースとして、いわゆるラーニングコモンズのような様々な用途で自由に使える空間も設け、身近に本を感じながら様々な活動が展開する、にぎわいのある場所となります。

また、中・上層階は従来からある県立図書館としての機能を拡充して、読書や調査・研究に集中できる空間を用意します。

さらに、上層階には学習室やサイレントルーム、個室研究席など、読書や調査・研究に没頭できる空間を確保することにより、県民の生涯学習や読書活動を支えます。



新図書館はこれらの2つの機能が共存する施設となりますが、「資料体」を見ながら2つの空間を回遊・横断でき、情報や事象が中・上層階や「資料体」に誘導されるイメージが感じられるスパイラルアップの動線を2~4階部分に設けることにより、それぞれ機能が分離されることなく一体的な図書館となる設計とします。

2つの機能を支える最大200万冊の収蔵能力を有し、一般的な図書や雑誌だけでなく、CDやDVD、電子書籍、さらには県史編さん収集資料に至るまで、県立図書館ならではの豊富な研究書や本県に関する資料を収集し、提供します。

また、一人で読書を楽しむことはもちろんのこと、グループでの活動や交流ができるよう、1000席近い様々なタイプの座席を用意することにより、例えば、テラスで富士山を仰ぎ見ながら読書をするなど、その日の気分や目的に応じて席を選ぶことができます。テラスは“ひさし”として活用することで日差しから資料を守るなど、資料保存にも配慮した設計とします。

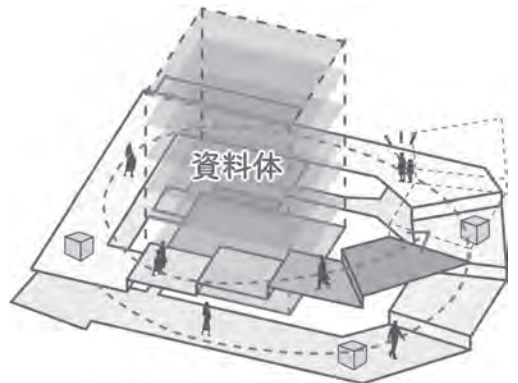
さらに、内装の一部に県産木材を活用するほか、県産家具も設置するなど、資料だけでなく建物全体から静岡らしさを感じられる空間をつくります。

なお、環境性能への配慮として、太陽光発電や雨水の利用など、SDGsの理念に沿った仕組みも導入します。

ソフト面での図書館サービスも拡充します。児童室を設置し、子ども図書研究室と併せて全年齢に対応した児童へのサービスを提供するほか、ティーンズコーナーや健康・医療情報提供コーナーなど、県民の知りたい情報をまとめた各種コーナーの設置などにより、現図書館の機能を継承・拡大した、知のインフラとしての図書館サービスを充実・強化します。

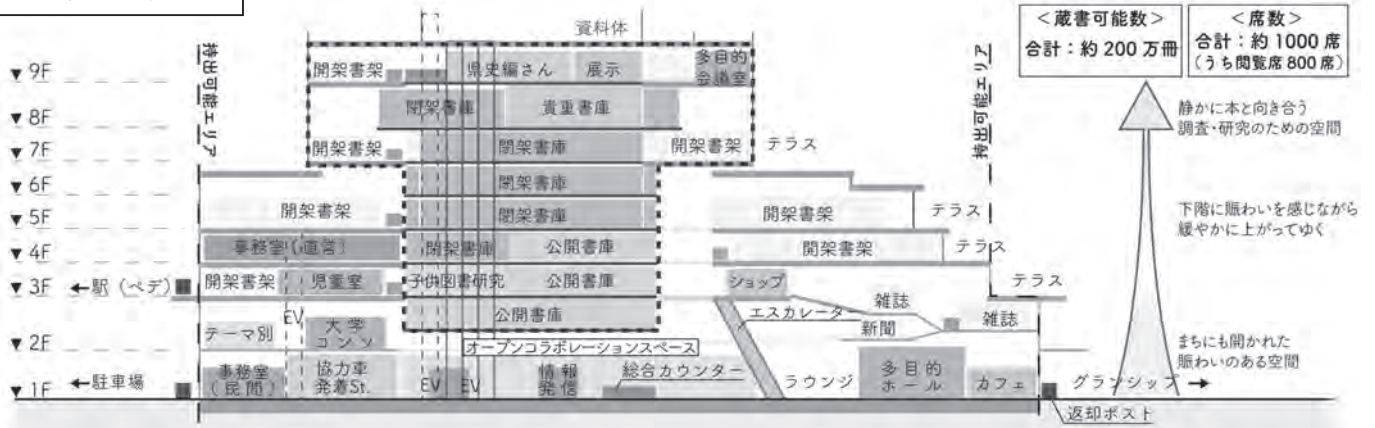
また、交流スペースでは、カフェも備えた学び・交流・創造の場として、資料・映像・実物など様々なメディアのレファレンス（調べ物案内）を充実しながら県民相互の交流を喚起することにより、多様な価値観を尊重しながら、コミュニケーションを介して新たな価値を生み出すことを目指す、新時代にふさわしい図書館サービスを展開していきます。

スパイラルアップのイメージ



新県立中央図書館の全体像

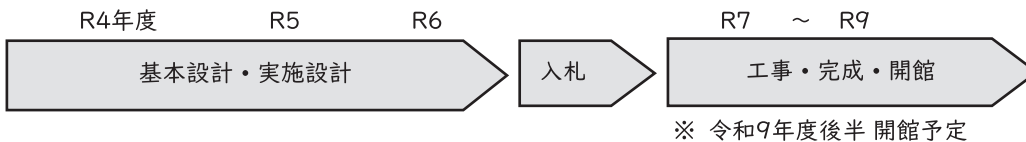
断面構成



建物は9階建てで、階を超えた資料の持ち出しも可能です。1～3階にはラウンジやカフェ、児童室など開かれた諸室を配置し、それらがスパイラルアップやエスカレーターでつながる造りになります。また7～9階にはサイレントルームや県史編さん収集資料閲覧コーナー、貴重書展示コーナーなど、本と向き合う静かな諸室を配置します。

なお、エレベーターを複数設置することにより、スムーズな階層間の上下移動が行えるようになります。

完成スケジュール



今後は、実施設計を進め、令和7年度に建物の建設工事に入り、令和9年度の施設の完成・開館を目指して作業を進めていきます。今の県立図書館をよく使う方だけでなく、普段図書館をあまり利用しない方に至るまで、多くの方が満足する施設となるよう整備を進めていきますので、完成まで今しばらくお待ちください。

いんしえ 歴史文化情報センター
昔へ いざない

『静岡県史研究』の紹介

今回ご紹介するのは、県史編さん事業を通じて明らかになった静岡県史に関わる論稿を収録した『静岡県史研究』(SZ20/17)です。昭和61年3月発行の創刊号から平成9年12月発行の第14号まで、その年の静岡県史編さん委員会や部会の活動報告や県史編さん室の日記などから構成され、県史編さんに関わっていた方々の「論文」や収集された資料の紹介、当時開催された講演会の内容、県史関係図書、市町村史編さん事業の紹介など盛りだくさんの内容となっています。ここ最近、静岡県に縁がある人物の大河ドラマが多く放送され、人気を博していますね。その人気にあやかり大河ドラマ関係人物の内容のものを一部ご紹介いたします。

- ・ 論文 『静岡県史研究第12号』大嶋善孝「家康伝説の変容と模倣」
- ・ 資料紹介 『静岡県史研究第9号』前田利久「天正十四年の家康・氏政会面について」
- ・ 講演会 『静岡県史研究第9号』有光友學「今川義元の生涯」

「静岡」にかかわる歴史の一部を深く掘り下げていくことで、今までと違った「静岡」の一面が見えてくるかもしれません。ぜひご覧になってみてください。

※歴史文化情報センターは、移転のため令和5年11月1日から休館します。詳細は当館 Webをご覧ください。

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センター 〒420-0853 静岡市葵区追手町9-18 静岡中央ビル7階
電話 054 (221) 8228 FAX 054 (255) 3988 メール rekibun01@tosyokan.pref.shizuoka.jp





2022.10.7 浜松市立可新図書館



2022.10.14 三島市立図書館中郷分館



2022.11.4 富士市立東図書館



2023.1.6 南伊豆町立図書館



2022.11.11 浜松市立積志図書館



2023.5.12 沼津市立戸田図書館

市町立図書館の振興のために、県立中央図書館は以下の事業を行っています。

- ▷ 協力車による運営相談や地域館・分館訪問を行い、図書館運営についてヒアリングや助言を行います。
- ▷ 各図書館の間で資料を貸し借り（相互貸借）する際の、情報と物流のネットワークを提供します。
- ▷ 各図書館で働く職員のスキルアップのため、公立図書館等職員研修を企画・運営します。
- ▷ 専門的な資料を収集し、市町立図書館の求めに応じて貸出（協力貸出）します。